

注3

大学番号：503

[平成24年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

届出

岡山理科大学大学院 理学研究科 動物学専攻

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人加計学園
平成25年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 庶務部 評価企画課

職名・氏名 カチョウ ナカ キリ ヒサ エ
課長 中 桐 久 恵

電話番号 086-256-8414

（夜間） 086-252-3161

F A X 086-256-9702

e-mail syomu@office.ous.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に
()書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部
(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成25年3月15日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	5
3	施設・設備の整備状況, 経費	8
4	既設大学等の状況	9
5	教員組織の状況	13
6	留意事項に対する履行状況等	18
7	その他全般的事項	19

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人加計学園

(2) 大学名

岡山理科大学

(3) 大学の位置

〒700-0005

岡山県岡山市北区理大町1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カケ コウタロウ) 加計 晃太郎 (平成13年1月)		
学長	(ハダ ヨシオ) 波田 善夫 (平成20年4月)		
研究科長	(タカシマ ケイゾウ) 高嶋 恵三 (平成22年4月)		
専攻長	(アサダ ノブヒコ) 浅田 伸彦 (平成24年4月)	(アイコウ ヒロミ) 愛甲 博美 (平成25年4月)	任期満了に伴う変更 平成25年4月1日 (25)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成23年度に報告済の内容 → (23)

平成25年度に報告する内容 → (25)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成23年度開設の博士後期課程の場合(平成25年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
理学研究科 動物学専攻 修士(理学)	2年	4人	8人	基礎となる学部等 理学部動物学科

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員超過率	備考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員		4 (-) [-]		4 (-) [-]				1.37 倍	
志願者数		12 (-) [-]	- (-) [-]	11 (-) [-]	- (-) [-]				
受験者数		11 (-) [-]	- (-) [-]	11 (-) [-]	- (-) [-]				
合格者数		8 (-) [-]	- (-) [-]	8 (-) [-]	- (-) [-]				
B 入学者数		5 (-) [-]	- (-) [-]	6 (-) [-]	- (-) [-]				
入学定員超過率 B/A		1.25		1.50					

- (注) ・ 数字は, 平成25年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成24年度		平成25年度		平成26年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[0] 5	[-] -	[0] 6	[-] -	[]	[]	
2年次	/		[-] 4	[-] -	[]	[]	
計	[0] 5		[0] 10		[]	[]	

- (注) ・ 数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成24年度 入学者	5人	1人	平成24年度	1人	0人	就職(1人)	20.0%
			平成25年度	0人	0人	—	
平成25年度 入学者	6人	0人	平成25年度	0人	0人	—	0.0%
合計	11人	1人					0.1%

(注)・数字は、平成25年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成25年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

2 授業科目の概要

<理学研究科 動物学専攻>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
野生動物学系科目	動物系統分類学特論	1後		2			1					
	動物社会生態学特論	1後		2		1						
	動物解剖学特論	1前		2		1						
	動物生理学特論	1前		2		1						
	古脊椎動物学特論	1前		2				1				
飼育動物学系科目	実験動物学特論	1前		2		1						
	動物行動学特論	1前		2		1						
	動物遺伝学特論	1前		2		1						
	動物保全育種学特論	1前		2				1				
動物学専攻共通科目	動物学特別講義Ⅰ	1・2前		1							兼1	隔年開講のため25年度は開講しない(25)
	動物学特別講義Ⅱ	1・2後 1→2前		1							兼1	H24より教育効果に配慮し開講期を変更(24) 隔年開講のため25年度は開講しない(25)
	動物学特別講義Ⅲ	1・2前 1→2後		1							兼1	H24より教育効果に配慮し開講期を変更(24) 隔年開講のため24年度は開講しない(24)
	動物学特別講義Ⅳ	1・2後		1							兼1	隔年開講のため24年度は開講しない(24)
	インターナショナルキャリア	1・2通		2		6	1	2				
	コンプリヘンシブ演習Ⅰ	1後		2		3	1	1				
	コンプリヘンシブ演習Ⅱ	1後		2		3		1				
	コンプリヘンシブ演習Ⅲ	1後	2			6	1	2				
	コンプリヘンシブ演習Ⅳ	2前	2			6	1	2				
理学研究科共通科目	フューチャーマセマティクス	1前→後		2							兼1	H24より教育効果に配慮し開講期を変更(24)
	フューチャーケミストリー	1前→後		2							兼15	H24より教育効果に配慮し開講期を変更(24)
	フューチャーフィジクス	1前→後		2							兼12	H24より教育効果に配慮し開講期を変更(24)
	フューチャーサイエンス	1前→後		2							兼17	H24より教育効果に配慮し開講期を変更(24)
	フューチャーバイオケミストリー	1前→後		2							兼13	H24より教育効果に配慮し開講期を変更(24)
	フューチャーライフサイエンス	1前→後		2							兼12	H24より教育効果に配慮し開講期を変更(24)
特別研究	1~2通	12			6	1	2					

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成24年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合は、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
3	22	0	25	3	22	0	25	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

(注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、届出時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当科目なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当科目なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当事項なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \frac{0}{25} = 0.00$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	集計値錯誤による変更 (25)		
	校舎敷地	114,888㎡ 136,539㎡	0㎡	0㎡	114,888㎡ 136,539㎡			
	運動場用地	138,961㎡ 119,713㎡	0㎡	0㎡	138,961㎡ 119,713㎡			
	小 計	253,849㎡ 256,252㎡	0㎡	0㎡	253,849㎡ 256,252㎡			
	そ の 他	534,358㎡ 530,917㎡	0㎡	0㎡	534,358㎡ 530,917㎡			
	合 計	788,207㎡ 787,169㎡	0㎡	0㎡	788,207㎡ 787,169㎡			
(2) 校 舎	専 用	86,515㎡ 86,493㎡ (86,515㎡) -(86,493㎡)	0㎡	0㎡	86,515㎡ 86,493㎡ (86,515㎡) -(86,493㎡)	大学全体 集計誤差による変更 (25)		
	共 用	()	0㎡	()	()			
(3) 教 室 等	講 義 室	77室	演 習 室 111室 -114室 +09室	実験実習室 386室 -668室 -670室	情報処理学習施設 9室 -12室 (補助職員 4人)	語学学習施設 0室 (補助職員 0人)	大学全体 用途変更および集計方法 変更による変更 (25) 用途変更による変更 (24)	
	新設学部等の名称	理学研究科 動物学専攻			室 数 10 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 (うち外国書) 冊	学術雑誌 (うち外国書) 種	電子ジャーナル (うち外国書) 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	基礎となる理学部動物 学科と共用 図書、標本の充実による 変更(25) 耐用年数経過のため、 機械・器具を廃棄 (25)
	理学研究科 動物学専攻	1347 [151] 1247 [-143] (1347 [151]) -(1173 [-125])	34 [19]	3 [3]	1 0 (1) (- 0 -)	614 751 614 (751)-	26 0 (26) (- 0 -)	
	計	1347 [151] 1247 [-143] (1347 [151]) -(1173 [-125])	34 [19]	3 [3]	1 0 (1) (- 0 -)	614 751 614 (751)-	26 0 (26) (- 0 -)	
(6) 図 書 館	面 積	3,152㎡ 3,192㎡ 3,812㎡	閱 覧 座 席 数	615	収 納 可 能 冊 数	395,450 369,450 409,889	収納可能冊数、面積値 錯誤による変更(25) 面積値錯誤による変 更。また、閉架書庫の 一部を事務スペースに 転用したため収容可能 冊数が減少(24)	
	面 積	3,716㎡ 7,388㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体			
(7) 体 育 館	面 積		トレーニングルーム2室	フィットネスルーム1室	大学全体			
	3,716㎡		野球場1面	テニスコート5面	面積値錯誤による変更 (24)			
	7,388㎡		アーチェリー場1カ所	弓道場1カ所				
			幅跳・三段跳場1面					
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	動物学専攻の図書設備 は、基礎となる学部学科 (動物学科)で整備する ため専攻負担の経費は発 生しない。
	教員1人当り研究費等	600千円	600千円	図書購入費	0千円	0千円	0千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次 1,200千円	第2年次 1,100千円	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料等					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成25年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(25)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	岡山理科大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
大学院								岡山県岡山市北区 理大町1番1号	
理学研究科修士課程						0.65			
応用数学専攻修士課程	2	6	—	12	修士(理学)	0.41	昭和55年度		・名称変更
化学専攻修士課程	2	16	—	32	修士(理学)	0.65	昭和49年度		平成17年度より工学 研究科機械工学専攻→ 機械システム工学専攻
応用物理学専攻修士課程	2	13	—	26	修士(理学)	0.57	昭和49年度		
総合理学専攻修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.33	昭和63年度		
生物化学専攻修士課程	2	13	—	26	修士(理学)	1.07	平成4年度		
臨床生命科学専攻修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.49	平成20年度		平成20年度より、 理学研究科臨床生命科 学専攻を設置。
動物学専攻修士課程	2	4	—	8	修士(理学)	1.37	平成24年度		
理学研究科博士課程(後期)						0.15			
応用数学専攻 博士課程(後期)	3	4	—	12	博士(理学)	0.00	昭和62年度		平成21年度より、 工学研究科福祉システム 工学専攻を募集停止し 知能機械工学専攻を 設置。
材質理学専攻 博士課程(後期)	3	9	—	27	博士(理学)	0.22	昭和53年度		
工学研究科修士課程						0.45			
応用化学専攻修士課程	2	13	—	26	修士(工学)	0.34	平成2年度		平成23年度より、 工学研究科生体医工学 専攻、建築学専攻を設 置。
機械システム工学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士(工学)	0.26	平成2年度		
電子工学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.62	平成2年度		
情報工学専攻修士課程	2	10	—	20	修士(工学)	0.35	平成8年度		
知能機械工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.87	平成21年度		平成24年度より、 理学研究科動物学専攻 を設置。
生体医工学専攻修士課程	2	6	—	12	修士(工学)	0.58	平成23年度		
建築学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.37	平成23年度		
工学研究科博士課程(後期)						0.33			
システム科学専攻 博士課程(後期)	3	5	—	15	博士(工学)	0.33	平成2年度		
総合情報研究科修士課程						0.57			
情報科学専攻修士課程	2	7	—	14	修士(総合情報)	0.85	平成13年度		
生物地球システム専攻 修士課程	2	7	—	14	修士(総合情報)	0.56	平成13年度		
社会情報専攻修士課程	2	6	—	12	修士(総合情報)	0.24	平成13年度		
総合情報研究科博士課程(後期)						0.33			
数理・環境システム専攻 博士課程(後期)	3	2	—	6	博士(学術)	0.33	平成15年度		
学部									
理学部						1.22			
応用数学科	4	95	—	370	学士(理学)	1.27	昭和39年度		・名称変更
化学科	4	70	—	285	学士(理学)	1.21	昭和39年度		平成18年度より、 応用化学科応用化学専 攻、生物・環境化学専 攻→バイオ・応用化学科
応用物理学科	4				学士(理学)		昭和41年度		
物理学専攻	4	30	—	120	学士(理学)	1.05	平成14年度		
医用科学専攻	4	40	—	160	学士(理学)		平成14年度		
基礎理学科	4	75	—	300	学士(理学)	1.26	昭和50年度		
生物化学科	4	85	—	340	学士(理学)	1.25	昭和63年度		・名称変更
臨床生命科学科	4	85	—	340	学士(理学)	1.27	平成16年度		平成19年度より、 工学部電子工学科→ →電気・電子システム学科
動物学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.23	平成20年度		
工学部						1.14			
バイオ・応用化学科	4	75	—	300	学士(工学)	1.26	昭和61年度		平成19年度より、 工学部生体医工学科、 総合情報学部建築学科 を設置。
機械システム工学科	4	85	—	340	学士(工学)	1.24	昭和61年度		
電気電子システム学科	4	70	—	280	学士(工学)	1.11	昭和61年度		
情報工学科	4	85	—	340	学士(工学)	1.24	平成4年度		
知能機械工学科	4	55	—	225	学士(工学)	0.95	平成17年度		
生体医工学科	4	60	—	240	学士(工学)	0.91	平成19年度		
建築学科	4	70	5 3年次	215	学士(工学)	1.12	平成23年度		

大学の名称	岡山理科大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
総合情報学部						1.16		岡山県岡山市北区 理大町1番1号	平成20年度より、 理学部動物学科を 設置。
情報科学科	4	80	—	320	学士(総合情報学)	1.15	平成9年度		
生物地球システム学科	4	—	—	—	学士(総合情報学)	—	平成9年度		
社会情報学科	4	80	—	310	学士(総合情報学)	1.21	平成9年度		
3年次									
建築学科	4	—	—	—	学士(総合情報学)	—	平成19年度		
生物地球学部						1.19			
生物地球学科	4	100	—	200	学士(理学)	1.19	平成24年度		
(理学専攻科)									
応用数学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度		
化学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度		
応用化学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度		
応用物理学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度		
機械理学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度		
電子理学専攻	1	5	—	5		0.00	昭和46年度		
教職特別課程	1	50	—	50		0.30	平成2年度		
大学の名称	倉敷芸術科学大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
大学院						0.35		岡山県倉敷市 連島町西之浦2640	平成17年度より芸術学部 工芸・デザイン学科より 10名を生命科学部健康科 学科へ振替。 産業科学技術学部(通信 教育課程)を募集停止。 起業学科(通信教育課 程)を募集停止。
芸術研究科修士課程						0.50	平成11年度		
美術専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)	0.20	平成11年度		
工芸専攻修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)				
芸術研究科博士課程(後期)						1.00			
芸術制作表現専攻 博士(後期)課程	3	4	—	12	博士(芸術)	1.00	平成13年度		
産業科学技術研究科修士課程						0.49			
計算機科学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.18	平成11年度		
機能物質化学専攻修士課程	2	8	—	16	修士(産業科学技術)	0.81	平成11年度		
産業科学技術研究科博士課程(後期)						0.41			
計算機科学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.16	平成13年度		
機能物質化学専攻 博士(後期)課程	3	2	—	6	博士(工学)	0.66	平成13年度		
人間文化研究科修士課程						0.29			
人間文化専攻修士課程	2	15	—	30	修士(学術)	0.29	平成11年度		
大学院(通信制)						0.05			
芸術研究科修士課程						0.05			
美術専攻(通信制)修士課程	2	10	—	20	修士(芸術)		平成14年度		
産業科学技術研究科修士課程						0.00			
機能物質化学専攻(通信制)修士課程	2	20	—	40	修士(産業科学技術)	0.00	平成14年度		
人間文化研究科修士課程						0.08			
人間文化専攻(通信制)修士課程	2	30	—	60	修士(学術)	0.08	平成14年度		

大学の名称	倉敷芸術科学大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
大学								岡山県倉敷市	
芸術学部						0.96		連島町西之浦2640	
美術学科	4	—	—	—	学士(芸術)	—	平成7年度		平成21年度より芸術学部美術工芸学科より5名を生命動物科学科へ振替。
工芸・デザイン学科	4	—	—	—	学士(芸術)	—	平成7年度		芸術学部デザイン学科より5名を生命医科学科へ振替。
美術工芸学科	4	35	—	145	学士(芸術)	0.62	平成20年度		産業科学技術学部 I T 科学科より5名を生命科学科へ振替。産業科学技術学部 I T 科学科より5名を観光学科へ振替。
			3年次						
メディア映像学科	4	35	2	132	学士(芸術)	1.33	平成14年度		産業科学技術学部 I T 科学科より5名を生命科学科へ振替。産業科学技術学部 I T 科学科より5名を観光学科へ振替。
デザイン学科	4	35	—	135	学士(芸術)	0.99	平成20年度		産業科学技術学部 I T 科学科より5名を観光学科へ振替。
産業科学技術学部						0.69			
I T 科学科	4	—	—	—	学士(産業科学技術)	—	平成7年度		産業科学技術学部コンピュータ情報学科(通信教育課程)は、I T 科学科(通信教育課程)に名称変更。
起業経営学科	4	—	—	—	学士(産業科学技術)	—	平成16年度		
			3年次						
観光学科	4	45	2	182	学士(産業科学技術)	0.66	平成20年度		
			3年次						
経営情報学科	4	50	2	162	学士(産業科学技術)	0.72	平成23年度		
生命科学部						1.05			
生命科学科	4	45	—	180	学士(生命科学)	1.12	平成16年度		平成23年度より産業科学技術学部 I T 科学科、起業経営学科を募集停止し、産業科学技術部に経営情報学科を設置。生命科学部健康科学科より5名を振替、25名純増し健康医療学科を設置。
健康科学科	4	55	—	225	学士(健康科学)	1.07	平成16年度		
			3年次						
生命動物科学科	4	65	2	270	学士(生命科学)	1.08	平成18年度		
生命医科学科	4	50	—	190	学士(生命科学)	1.16	平成20年度		
健康医療学科	4	30	—	90	学士(健康科学)	0.53	平成23年度		
学部(通信教育課程)									
産業科学技術学部			2年次						
I T 科学科	4	—	—	—	学士(産業科学技術)	—	平成16年度		平成24年度より産業科学技術学部経営情報学科より5名をメディア映像学科へ振替。産業科学技術学部経営情報学科より5名を生命医科学科へ振替。
			3年次						
			—						
									平成25年度より生命科学部生命動物学科の3年次編入学定員8名を、芸術学部メディア映像学科、産業科学技術学部観光学科、経営情報学科へ3年次編入学定員2名ずつ振替。
大学の名称	千葉科学大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
大学院								千葉県銚子市	
薬学研究科						0.33		潮見町3番地	平成20年度より大学院薬科学研究科薬科学専攻修士課程及び同危機管理科学研究科危機管理専攻修士課程を設置。
薬科学専攻									
修士課程	2	—	—	—	修士(薬科学)	—	平成20年度		
修士課程	2	10	—	20	修士(薬科学)	0.50	平成22年度		平成22年度より旧4年制薬学課程を基礎とする大学院薬科学研究科薬科学専攻修士課程を募集停止し、新たに新4年制薬学課程を基礎とする同薬科学研究科薬科学専攻修士課程を設置。
博士課程(後期)	3	5	—	10	博士(薬科学)	0.20	平成22年度		
薬学専攻						0.16			
博士課程(後期)	4	3	—	6	博士(薬学)	0.16	平成24年度		
危機管理科学研究科						0.46			
危機管理専攻									
修士課程	2	5	—	10	修士(危機管理学)	0.60	平成20年度		平成22年度より大学院薬科学研究科薬科学専攻博士課程(後期)及び同危機管理学部危機管理専攻博士課程(後期)を設置。
博士課程(後期)	3	3	—	6	博士(危機管理学)	0.33	平成22年度		
大学									
薬学部			4年次			0.74			
薬学科	6	120	10	840	学士(薬学)	0.78	平成18年度		平成24年度より薬科学研究科を薬学研究科に名称変更
薬科学科	4	—	—	—	学士(薬科学)	—	平成18年度		
動物生命薬科学科	4	—	—	—	学士(動物生命薬科学)	—	平成20年度		
生命薬科学科	4	40	—	180	学士(生命薬科学)	0.53	平成22年度		

大学の名称	千葉科学大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
危機管理学部						0.94		千葉県銚子市 潮見町3番地	平成24年度より薬学研究科薬学専攻博士課程を設置 平成18年度より薬学部薬学科を6年制課程へ移行し、薬学部薬科学科を設置。 平成20年度より薬学部動物生命薬科学科を設置。 平成24年度より生命薬科学科の入学定員△10 平成21年度より危機管理学部防災システム学科及び環境安全システム学科を募集停止し、動物・環境システム学科、医療危機管理学科を設置。 平成22年度より薬学部薬科学科及び動物生命薬科学科を募集停止し、薬学部生命薬科学科、危機管理学部航空・輸送安全学科を設置。 平成24年度より動物・環境システム学科を募集停止し、環境危機管理学科、動物危機管理学科を設置。 平成24年度より危機管理システム学科、動物・環境システム学科、医療危機管理学科、航空・輸送安全学科の3年次編入学定員を、環境危機管理学科、動物危機管理学科に振替。 平成25年度より航空・輸送安全学科を工学技術危機管理学科に名称変更
防災システム学科	4	—	—	—	学士(危機管理)	—	平成16年度		
環境安全システム学科	4	—	—	—	学士(危機管理)	—	平成16年度		
危機管理システム学科	4	100	—	400	学士(危機管理)	1.06	平成16年度		
環境危機管理学科	4	40	—	80	学士(危機管理)	0.86	平成24年度		
動物・環境システム学科	4	—	—	—	学士(危機管理)	—	平成21年度		
医療危機管理学科	4	80	—	320	学士(危機管理)	1.17	平成21年度		
工学技術危機管理学科	4	40	—	160	学士(危機管理)	0.31	平成25年度		
動物危機管理学科	4	40	—	80	学士(危機管理)	0.78	平成24年度		

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)について, それぞれの学校種ごとに, 平成25年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。その際, AC対象学部学科等についても当該様式に記入してください。(ただし, 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。)

- ・ 「定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を, 学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には, 専攻課程)単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員と収容定員は「—」とし, 「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<理学研究科 動物学専攻>

(1) 担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	教授	高崎 浩幸 (55)	平成24年4月	動物社会生態学特論 国際ナショナルキャリア コンプリヘンシブ演習Ⅰ コンプリヘンシブ演習Ⅲ コンプリヘンシブ演習Ⅳ 特別研究						
専任	教授	名取 真人 (57)	平成24年4月	動物解剖学特論 国際ナショナルキャリア コンプリヘンシブ演習Ⅰ コンプリヘンシブ演習Ⅲ コンプリヘンシブ演習Ⅳ 特別研究						
専任	教授	清水 慶子 (60)	平成24年4月	動物生理学特論 国際ナショナルキャリア コンプリヘンシブ演習Ⅰ コンプリヘンシブ演習Ⅲ コンプリヘンシブ演習Ⅳ 特別研究						
専任	教授	織田 統一 (65) (高)	平成24年4月	実験動物学特論 国際ナショナルキャリア コンプリヘンシブ演習Ⅱ コンプリヘンシブ演習Ⅲ コンプリヘンシブ演習Ⅳ 特別研究						
専任	教授	愛甲 博美 (60)	平成24年4月	動物行動学特論 国際ナショナルキャリア コンプリヘンシブ演習Ⅱ コンプリヘンシブ演習Ⅲ コンプリヘンシブ演習Ⅳ 特別研究						
専任	教授	浅田 伸彦 (55)	平成24年4月	動物遺伝学特論 国際ナショナルキャリア コンプリヘンシブ演習Ⅱ コンプリヘンシブ演習Ⅲ コンプリヘンシブ演習Ⅳ 特別研究						
専任	准教授	小林 秀司 (49)	平成24年4月	動物系統分類学特論 国際ナショナルキャリア コンプリヘンシブ演習Ⅰ コンプリヘンシブ演習Ⅲ コンプリヘンシブ演習Ⅳ 特別研究						
専任	講師	高橋 亮雄 (38)	平成24年4月	古脊椎動物学特論 国際ナショナルキャリア コンプリヘンシブ演習Ⅰ コンプリヘンシブ演習Ⅲ コンプリヘンシブ演習Ⅳ 特別研究						
専任	講師	城ヶ原 貴通 (31)	平成24年4月	動物保全育種学特論 国際ナショナルキャリア コンプリヘンシブ演習Ⅱ コンプリヘンシブ演習Ⅲ コンプリヘンシブ演習Ⅳ 特別研究						
兼任	教授	竹中 茂夫 (64)	平成24年4月	フューチャーマセマティクス						
兼任	教授	山田 晴夫 (55)	平成24年4月	フューチャーケミストリー ※						
兼任	教授	大谷 槻男 (68)	平成24年4月	フューチャーケミストリー ※						
兼任	教授	森重 國光 (65)	平成24年4月	フューチャーケミストリー ※						
兼任	教授	豊田 真司 (48)	平成24年4月	フューチャーケミストリー ※						
兼任	教授	林 宏哉 (64)	平成24年4月	フューチャーケミストリー ※						
兼任	教授	赤司 治夫 (49)	平成24年4月	フューチャーケミストリー ※						
兼任	教授	善木 道雄 (68)	平成24年4月	フューチャーケミストリー ※						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	柴原 隆志 (71)	平成24年4月	フューチャーケミストリー※						
兼任	教授	橋高 茂治 (70)	平成24年4月	フューチャーケミストリー※						
兼任	教授	横山 崇 (48)	平成24年4月	フューチャーケミストリー※						
兼任	教授	平岡 裕 (64)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
兼任	教授	金子 敏明 (58)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
兼任	教授	宮川 和也 (59)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
兼任	教授	米田 稔 (50)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
兼任	教授	豊田 新 (49)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
兼任	教授	中川 幸子 (63)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
兼任	教授	蛭川 清隆 (62)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
兼任	教授	川端 晃幸 (54)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
兼任	教授	中川 益生 (66)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
兼任	教授	畑中 啓作 (57)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
					兼任	教授	藤井一佳子 (67)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)。平成25年3月藤井教授辞任により削除。なお、担当科目はオムニバス形式にて、他の教員が担当できるため支障はない。(25)
兼任	教授	山崎 正之 (58)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※						
兼任	教授	板谷 徹丸 (65)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※						
兼任	教授	小林 祥一 (61)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※						
兼任	教授	西戸 裕嗣 (60)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※						
兼任	教授	兵藤 博信 (57)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※						
兼任	教授	森 嘉久 (46)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※						
兼任	教授	山崎 重雄 (64)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※						
					兼任	教授	若村 国夫 (66)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)
					兼任	教授	財部 健一 (61)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)
					兼任	教授	横川一賢二 (65)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)。平成25年3月横川教授辞任により削除。なお、担当科目はオムニバス形式にて、他の教員が担当できるため支障はない。(25)
					兼任	教授	守田 益宗 (57)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)
					兼任	教授	北岡 豪一 (68)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)
					兼任	教授	長瀬 裕 (48)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	教授	池田 正五 (55)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	教授	大平 進 (60)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	教授	尾堂 順一 (61)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	教授	田中 三男 (66)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	教授	野上 祐作 (69)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	教授	野崎 浩 (64)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	教授	南 善子 (52)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	教授	樫本 泰雄 (57)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
兼任	教授	小嶋 健博 (63)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
兼任	教授	谷内 孝次 (69)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※	兼任	教授	谷内 孝次 (69)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※	平成24年3月谷内孝次教授辞任により削除。なお、担当科目はオムニバス形式にて、他の教員が担当できるため支障はない。(24)
兼任	教授	濱田 博喜 (59)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
兼任	教授	益岡 典芳 (64)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
兼任	教授	油谷 親夫 (69)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
兼任	准教授	高原 周一 (46)	平成24年4月	フューチャーケミストリー※						
兼任	准教授	山田 真路 (40)	平成24年4月	フューチャーケミストリー※						
兼任	准教授	若松 寛 (48)	平成24年4月	フューチャーケミストリー※						
兼任	准教授	坂根 弦太 (44)	平成24年4月	フューチャーケミストリー※						
兼任	准教授	伊代野 淳 (48)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	兼任	教授	伊代野 淳 (48)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	昇任による職位変更(24)
					兼任	准教授	山口 一裕 (54)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)
					兼任	准教授	齋藤 達昭 (51)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)
					兼任	准教授	荒谷 督司 (42)	平成25年4月	フューチャーサイエンス※	平成25年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(25)
兼任	准教授	青木 宏之 (53)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	准教授	窪木 厚人 (41)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	准教授	林 謙一郎 (44)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※	兼任	教授	林 謙一郎 (44)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※	昇任による職位変更(24)
兼任	准教授	三井 亮司 (42)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	准教授	石原 浩二 (44)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
兼任	准教授	片山 誠一 (53)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
兼任	准教授	松浦 信康 (46)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
					兼任	准教授	片岡 健 (45)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)
兼任	講師	堀 純也 (36)	平成24年4月	フューチャーフィジックス※						
					兼任	講師	岩永 哲夫 (35)	平成25年4月	フューチャーケミストリー※	平成25年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(25)

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
					兼任	講師	山崎 洋一 (53)	平成24年4月	フューチャーサイエンス※	平成24年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(24)
兼任	講師	猪口 雅彦 (50)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	講師	宮永 政光 (42)	平成24年4月	フューチャーバイオケミストリー※						
兼任	講師	橋川 直也 (33)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
兼任	講師	橋川 成美 (34)	平成24年4月	フューチャーライフサイエンス※						
					兼任	講師	山口 悟 (42)	平成25年4月	フューチャーライフサイエンス※	平成25年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(25)
					兼任	講師	大石正和 (69)	平成25年4月	フューチャーフィジックス※	平成25年4月より教育効果に配慮し担当教員を追加(25)
兼任	講師	阿部 司 (34)	平成24年4月	動物学特別講義Ⅰ「隔年」						
兼任	講師	目加田 和之 (37)	平成24年4月	動物学特別講義Ⅱ「隔年」						
兼任	講師	篠原 明男 (36)	平成25年4月	動物学特別講義Ⅲ「隔年」						
兼任	講師	竹田 正人 (53)	平成25年4月	動物学特別講義Ⅳ「隔年」						

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成25年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画			変更状況			年齢構成	
研究指導教員	研究指導補助教員	計	研究指導教員	研究指導補助教員	計	教員の定年年齢	定年を延長している教員数
9	0	9	9	0	9	講師以上	
(9)	0	(9)	(9)	0	(9)	65歳	1名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成25年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年年齢および、平成25年5月1日現在、特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	—	該当者なし	—
2	—	—	—
3	—	—	—

(注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (平成23年5月)	・理学部動物学科の定員超過 の是正に努めること。	平成20年度の1.55倍を踏 まえ、平成21年度、22年度 は、前年度および前々年度の合 格者から入学者の歩留まり率を 求め、それより15%高い率で 合格者を決め、それぞれに1. 12倍、1.17倍となり、3 年間で1.28倍とは正できま したが、平成23年度前期入試 において合格者が全員入学した ため想定数を超え1.45倍と なり、4年間の超過率が1.3 2倍となりました。 平成24年度入試においては、 年内入試を終えた後、許可者全 員が入学しても4年間で適正な 人数となるよう入試判定を行 い、定員超過の是正に努めた結 果、1.17倍に留めることが でき、4年間の超過率も1.2 2倍に抑えることができました。 なお、次年度以降も引き続き定 員超過の適正に努めます。	
設置計画履行状況 調 査 時 (平成24年5月)	該当なし		

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。（認可で設置された学部学科等のみ。）
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<理学研究科 動物学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	該当事項なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>【FD委員会】 平成12年度に大学の教育・研究に関する事項を審議する教育研究委員会の下部委員会として設置。平成16年度に独立した委員会となり、平成22年度には、共通教育の充実及び教育改善を継続的に行っていくため教育開発支援機構を設置し、その中に教育活動評価及び授業改善の企画・実施を担当するFD推進室を置くとともに、各学科にFD推進員を置き、FD実践の組織的な体制を強化した。</p> <p>本委員会は、副学長（教育研究担当）、副学長（管理運営担当）、学部長、学務部長、学務部次長、教育開発支援機構長、FD推進室長、共通教育連携室長、教職・学芸員センター所長、数学・情報教育センター所長、理科教育センター所長、学習支援センター所長、科学ボランティアセンター所長、大学事務局長、大学事務局次長、学務部事務部長、及び各学部代表1名等から構成されており、平成24年度委員長はFD推進室長が担当した。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 委員会は年3～4回程度開催している（24年度は2回実施）。参加状況は委員全員が出席を原則とし、欠席の場合は代理出席を求める。また、FD推進員会議を開催し、学科ごとのFD取組について検討している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD義務化への対応 ・ 外部評価の助言（FD関係）に対する回答 ・ 授業改善 ・ 授業アンケート ・ 教育システムの点検 ・ 個別科目、科目群の検討 ・ FD講演会の開催 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業アンケート ・ 教員相互の授業参観 ・ FD講演会、FD・SD講演会 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生による授業アンケートに関しては③に記述しているので割愛する。 ・ 教員相互の授業参観はいくつかの学科内で行っているもの以外に、全学の教員が参観できる授業参観を6月から12月にかけて12回行った。 ・ FD講演会、FD・SD講演会 講演会は講師による講演と質疑応答を行い各自が授業改善の取り組みに生かす。フォーラムは講演とワークショップがセットになったもので、ワークショップでは具体的に教授手法などを学ぶことができる。
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 全学の教員が参観できる授業参観は次のとおり実施した。

【平成23年度】

- 第1回 6月27日（月） 社会情報学科 志野敏夫教授 「東アジアの歴史」 参観者8名
- 第2回 7月4日（月） 生物地球学科 波田善夫教授・学長 「植生学」 参観者9名
- 第3回 7月5日（火） 化学科 豊田真司教授 「有機化学I」 参観者
- 第4回 7月6日（水） バイオ・応用化学科竹崎誠准教授・情報処理センター岩崎彰典准教授
「パソコン入門1」 参観者6名
- 第5回 7月7日（木） 知能機械工学科 藤本真作准教授 「物理学Ⅱ」 参観者5名
- 第6回 10月26日（水） 応用数学科 田中敏准教授 「微分積分学Ⅳ」
- 第7回 11月9日（水） バイオ・応用化学科 森山佳子教授・情報処理センター岩崎彰典准教授
「パソコン入門Ⅱ」 参観者3名
- 第8回 11月25日（金） 生体医工学科 中路修平教授 「人工臓器Ⅲ」
- 第9回 12月1日（木） 建築学科 山崎雅弘教授 「構造力学Ⅱ」 参観者2名
- 第10回 12月7日（水） 情報科学科 榎原道夫教授 「代数Ⅱ」 参観者2名
- 第11回 12月15日（木） 電気電子システム学科 垣谷公德教授 「電子物性の基礎」 参観者6名
- 第12回 12月22日（木） バイオ・応用化学科 滝澤昇教授 「生化学Ⅱ」 参観者5名

【平成24年度】

- 第1回 9月25日（火） 応用物理学科 堀 純也講師 「医用工学概論」 参観者3名
- 第2回 10月5日（金） 教養教育センター 森 博史准教授 「健康の科学」
参観者 1・2時限 3名、5・6時限 6名
- 第3回 12月5日（水） 情報工学科 島田 英之准教授 「画像処理とCG」 参観者2名

- ・ FD講演会、FD・SD講演会

【平成23年度】

- 23年6月30日 第17回FD講演会
講師 山口大学 小川勲教授・
演題 高等教育の質保証のための3つのポリシーと教育改善の実質化
参加者数 教員55名、事務職員10名 外部2名 計67名
- 23年12月1日 第18回FD講演会
講師 情報科学科 柳貴久男准教授
演題 授業アンケートから見えてくること---解析結果報告
参加者数 教員57名、事務職員3名 計60名
- 24年3月6日 第1回FD・SDフォーラム
第1部 平成23年度FD・教育改善活動報告会（各学部・代表学科による）
第2部 第19回FD講演会
講師：北森義明氏 順天堂大学名誉教授 武蔵野大学客員教授
本田貴継氏 株式会社ラーニングバリュー 常務取締役
演題：「学生が自ら学ぶ場つくりのために」
～自己理解を深めるプログラム「自己探求」実践事例～
参加者数 教員83名、事務職員26名（本部3、大学23） 計109名
- 第3部 分科会
1 「自己の探究Ⅰ」体験版プログラム
参加者数：教員21名、事務職員18名（本部3、大学15） 計39名
2 「授業の技法」講師：洲脇史朗氏 本学応用数学科教授
参加者数：教員34名、
情報交換会 参加者数 講師4名、教員11名、事務職員2名 計17名

【平成24年度】

- 24年5月31日 第20回FD講演会
講師：松上京子先生
演題：「つたえる心とわかろうとする心
—障がい者と健常者のカベを越えて—」
参加者数 56名参加
- 24年6月13日 FDカフェ 柳 貴久男先生
「数学多様化度調査から見えてきたこと」
- 24年7月5日 第21回FD講演会
講師：西村 優紀美先生
演題：「発達障害のある学生の理解と修学支援」
参加者数 79名参加
- 24年11月29日 第22回FD講演会
講師：山田 剛史先生
演題：「カリキュラムツリーとシラバスの作成ワークショップ」
参加者 35名参加
- 25年3月11日 FD活動報告会
各学部のFD活動の報告会
（同日午後、学園主催の濱名篤先生、山本雅淑先生の講演会）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・授業参観に関しては参観者にレポート書いていただき、学内の教職員が閲覧可能なポータルサイトに掲載したレポートを見ることで各授業参観に参加できなかった教員への参考資料になることを期待している。
- ・講演会、フォーラムは参加教員が自分の講義に生かすことが目的であるので、全体としての改善の取り組みはしていない。
- ・カリキュラムツリーとシラバスの作成ワークショップでは、過去のシラバス等を見直して修正するなどの改善が見られた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・学部学生の授業アンケートは講義・演習の全科目について、年2回前期・後期の定期試験前にマークシート方式で実施している。学生に対する質問4項目、授業と教員に対する質問6項目、教室・設備に関する質問1項目、自由記述からなる。
- ・大学院授業アンケートは、半期ごとに紙に印刷したものを無記名で記入してもらう。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・平成24年度より、2年間検討した新アンケートに切替えた。特徴としては、評価尺度を廃止し、設問ごとに回答選択肢をチェックする方式にしたため、より個々の授業の改善点がわかり易くなることが期待される。
- ・学部学生のアンケートの集計結果は、実施教員に統計データとともにコメントについてはスキャン画像を返却している。これを元に各教員は「各項目評価に対する所見」「受講者へのコメント」「次回に向けての改善・変更予定」「自由記述に対する回答」に関する教員の所見をWebシラバスに連動したページに記入し、学生がWebブラウザで見えるようにしている。
集計結果を返却する際は学科長が点検し、特に問題があると判断した結果に関しては該当教員に改善を促すことにしている。
- ・大学院の授業アンケートはアンケートに記入されたものを担当教員に返却する。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

動物学専攻の入学定員は4名であるが、平成24年度は志願者12名で入学者は5名、平成25年度は志願者10名で入学者6名と学生を確保しており、志願者・入学者数とも良好な状況にある。志願者全てが本学科からの進学者であり、入学者充足率は平成24年度が1.25倍、平成25年度が1.5倍と順調に推移している。教育環境においては、本専攻の特論科目を主たる教育内容とし、野生動物系と飼育動物系に分けて教育し、研究を遂行する上で必要な知識を提供している。また、野生動物系と飼育動物系の両系列に学問分野が重複する外部講師を招聘し、最新のトピックスを特別講義として学生には提供することにより、一層の視野拡大を目指している。それに加えて学生の研究テーマに即して実践的技術を学習し、プレゼンテーション能力の向上を目指す演習科目、グローバル化に向けての英語力の向上、国際学会での研究発表をサポートするための科目を開講している。また、本専攻では動物を取り扱う上での倫理や法規等学ばせ、一定の成果が研究に反映できている。

教員組織は、野生動物に精通した教員や飼育動物に関わる研究を行う教員、生物多様性の諸問題を伝播でき、動物学に深い造詣をもった教員等から構成されており、学生への教育・研究体制は万全である。平成25年度は動物学専攻として完成年次を迎えるにあたり、本専攻では科学的思考と生物学全体に深い知識を備え、動物学の見識を深めた学生の教育・研究への質的向上に努めており、その目的を十分達成してきた。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成26年6月1日 公表

b 公表方法

記入例)

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、希望者に配布予定
- ・大学ホームページ上に公表予定（平成26年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成25年度に評価機関（大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で準備中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(25年 7月 31日)